

人権協地区委員会活動の紹介

山手地区委員会 「アフリカのこどもたちの様子を知らう」

ベナン共和国の農村地帯で、トイレ建設、井戸掘りを通して衛生教育を目的として活動をしている海外青年協力隊の方に小学生の児童と一緒に話を聞きました。

この地域には、完全なトイレが80%もなく、畑の中に穴を掘り、用を足しており、そのまま家の中で生活をするので病気の罹患率も高く、死亡の原因になっています。そこで学校にトイレをつくり、トイレ教育を行い、トイレ後の手洗いを習慣化させることで感染症を減らすことができました。

しかし使用できる水も少なく安心して飲める水は0.01%しかないので、井戸を掘って水を確保しています。これまで水を確保するための水くみの仕事はこどもたちが主に担っていました。しかし、支援活動を行うことでこどもたちが学校へ行ったり勉強したりする時間を作ることができました。学校には教科書もノートもありますが、こどもたちがタブレットを使って一生懸命勉強する様子が見られました。

この講演と一緒に聞いていた小学生の児童に感想は聞かなかったのですが、自分たちと環境があまりにも違うので先生のお話が少し理解しづらいようでした。

今後もトイレを作ったり、井戸掘りで水を確保したりしながら、手洗いで感染症が抑制できることを村人やこどもたちに伝える活動を続けられるそうです。開発途上国でこどもたちの幸せのために活動をされている人たちがおられることを改めて認識しました。

最後に試食会をしました。現地では主食であるトムロコシと山芋を粉にして水で練ったものをいただくのですが、今回は、トマトなどを加え、イタリア料理に変えて美味しくいただきました。

山手地区委員会副代表 辻西 八千子



西山田地区委員会 ＜戦後80年企画＞ 講演会「まもるくん 10歳の戦争・吹田」

昨年、「吹田の空襲を語り継ぐ会」が終戦時10歳だった吹田市在住の坂本衛さんの体験を元にして紙芝居を作りました。今回の講演会では同会のみなさんと坂本衛さん、そして西山田の子どもたち3人が読み手として協力してくれました。こどもたちが感情を込めて語るその姿と、臨場感あふれた臼井さんの絵に、私たちはすっかりと引き込まれてしまいました。

その後、原作者の坂本さんが90歳の年齢とは思えないほどの力強い声で当時のお話をしてくれました。お兄さんが召集を受けて中国に送られ、栄養失調でなくなった話。空襲のあとと真っ黒な雨が降った話。特攻隊で若い兵士たちが片道の燃料で散っていった話。終戦の玉音放送を聞いたときの話など、普段は聞けない多くのお話を聞くことができました。

「戦争は敵と戦って死ぬだけではない。自分の国にも殺される。そんな悲しくておそろしいもの」という坂本さんの話に心うたれました。戦争は最大の人権侵害です。二度とやってはいけない。戦争を語る人がどんどん少なくなっている今、そうした声を語り継ぐ取り組みとして今回の講演会は非常に意義のあるものだったと思います。そうしてこの紙芝居が多くの人に利用され、こどもたちが大きくなってまた次の世代に戦争の悲惨さと平和の大切さを引き継いでいけたらと思います。

西山田地区委員会代表 神戸 寿夫



2025 人権スタンプラリー 実施中!!

～人権のことが学べる・施設のことがわかる・啓発グッズがもらえる～

人権に関するイベントや講演会に参加してスタンプを集めよう。



2026年3月31日まで実施

詳しくはQRコードで検索してね!

参加すればいいこといっぱい!



じんけんネット吹田



2,3面:「戦時中の食生活」について

4面:地区活動の紹介

-2025- 人権フェスティバル

～地域から、心をつなぐ人権の輪～

申込不要

手話通訳あり
要約筆記あり

入場無料

日時 令和7年(2025年)12月7日(日)13:30～16:00
(開場 13:00)

場所 メイシアター 中ホール

当日、会場に直接お越し下さい



講演 女流落語家奮闘記

講師 かつら さんせん
桂 三扇 さん (落語家)

■プロフィール

京都府生まれ。甲南女子大学在学中の1992年に桂三枝(六代桂文枝)に入門。上方では、露の都、桂あやめに次ぐ女流落語家として、落語、講演、司会で活躍中。上方落語協会女性部「上方笑女隊」メンバー。
上方落語で3人目の女流噺家として、女性であるがゆえに弟子修行中や落語家として感じたハンディや失敗談と、女性としての体格などのハンディは仕方がないが、師匠が何を思っているのかを先に考えることはできる、その人のことを思いやることで、その人の思いを理解できるという経験を通じた学びをユーモアを交えながら語ります。



コンサート 笑顔あふれる世界を祈り ～とっておきのラブソングをあなたへ～

出演 ほしな 星名 ともみ さん (シンガーソングライター、音楽療法士、音楽健康指導士)

■プロフィール

奈良県生まれ。幼少期より歌うことが好きで、童謡・唱歌、歌謡曲、シティポップ、ラテン、ポップス、ボサノヴァなど様々な音楽に魅了され、ノスタルジックな名曲を歌うシンガーとして活動する。コロナ禍中、出会えた人々の笑顔あふれる世界を祈り、2022年から作詞・作曲の創作活動をスタートする。また、更生保護や子育て支援そして命を大切にすることを曲を通して、メッセージとして伝えている。各地ではシンガーソングライター・音楽療法士としてもコンサートや講演活動を精力的に行い多方面からも好評を得ている。



2025市民ひゅーまんセミナー地区開催

日頃、なんとなく支援学校のバスが行き交うのを見かけることがありますが、支援学校ってどんな学校かよく理解していないのが実情かなと思います。今回、支援学校への理解を深めるため、江坂大池小学校の体育館をお借りし、「吹田支援学校から地域へ世界へ」と題してコンサートと講演会を開催いたしました。

クラリネットアンサンブルHanaさんによる演奏に始まり、就労継続支援B型「くわいふぁくとりー」を立ち上げ、支援の輪を広げられている鳩山あゆみさんの講演「くわいふぁくとりーからつながる未来」、最後に吹田支援学校教諭の宇田川順子さんが第65次南極地域観測隊に参加されたお話を「吹田支援学校⇄南極昭和基地とつながる14,000kmを超える南極授業」と題し、講演をしていただきました。

いずれも興味深いお話で色々障がいや悩みをお持ちの皆さんを地域社会の輪で支え合っていくことの大切さを改めて考えるきっかけとなった講演会でした。

体育館の後方には「くわいふぁくとりー」や「吹田支援学校」の作品が展示され、皆さん興味深くご覧になっていました。

江坂大池地区委員会代表 西川 沃



「戦時中の食生活」って ご存じですか？

今年は戦後80年の節目の年。日本はコメ不足によるコメの高騰や物価高で私たちの生活は圧迫されています。そして世界は本当に平和になっているのでしょうか。

私たちは、戦争の悲惨さを80年たった今でも決して忘れることができません。世界に目を向けてみると、いまだに紛争や戦争が続いている国もあり、報道で爆撃の様子や逃げ惑う人々や泣き叫んでいるこどもの姿を目の当たりにして、いたたまれない気持ちになってきます。

今回は国民の暮らしに一番影響が大きかった「戦時中の食生活」に焦点を当てて、改めて「戦争とは、平和とは」を考えてみました。

～吹田市立平和祈念資料館の展示から～

配給制度って???

戦争により食糧不足の
対応策として政府が始めたもの

広報委員さんと事務局が訪ねました。



▲家庭用品購入通帳

国民には世帯人数に応じて配給切符や通帳が配布された。これは、誰もが最低限の生活物資を得られるようにする狙いがあったんだ。けど、配給量の不足、品質の悪さ、闇市での高値取引の横行など、国民に不満を募らせるものだったんだ。



配給になった食料品

戦争が長びくにつれ、すべてのものが次々に配給制になっていきました。ここでは、米以外の食料品の配給についてみてみましょう。

品名	配給開始	配給終了	備考
砂糖	1940年	1945年	これは東京の割当量です。しかし、この量が必ず買えるわけではなく、特に生鮮食品は不足したり、配給日が遅れたりしました。また基本となる割当量自体も減らされていきました。
小麦粉	1941年	1946年	
菓子	1941年	1946年	
牛乳	1941年	1946年	
ビール	1941年	1946年	
食用油	1941年	1946年	
さかな	1941年	1946年	
たまご	1941年	1946年	
酒	1941年	1946年	
みそ	1941年	1946年	
しょうゆ	1941年	1946年	
塩	1941年	1946年	
やさい	1941年	1946年	

お米の配給制度の流れ

- 1937年……………日中戦争始まる。食糧生産力が低下。
- 1939年4月……………配給制 開始。
- 1939年12月……………白米禁止令(七分つき以上の米は禁止)
- 1941年4月……………一人一日2.3合(約330g)米穀購入通帳で配給
- 1943年1月……………七分つきから五分へ。のちにすぐ玄米になる。一升瓶に入れて棒でついて表面のロウ層を削った。(七分つきより五分つきの方がぬかをたくさんとり白米に近い)
- 1945年5月……………雑穀入り(大豆かす・コーリヤンを混ぜたもの)を主食とした。



その他の食料品も配給になったよ。どれも生活に必要なものばかりだね。戦争の影響で色々な食糧が不足して、食べることができる量が限られてしまったんだ。配給ではとても足りない。

昔と今を比べてみたら…。

一日の食事を比べてみましょう！



さあ、目の付け所を探しましょう



一日の総カロリー

昔約840kcal 今約2000kcal

帝国日本が崩壊したのは1945年。小3の私は、白米の配給がなくて、虫や芋の葉まで食べて飢えをしのいでいた。あの頃は、食べることが命そのものだった。お腹を押さえながら、展示物を見ました。「戦争だけはしてはならない」と強く感じます。あの時代を生きた者として、食べ物のありがたさを忘れてはいけない、粗末にはしてはいけないと思いました。



小学6年生の体格を比べてみましょう！



引用：学校保健統計調査

1948年(昭和23年)			2024年(令和6年)		
男	身長	126.1cm	男	身長	146.0cm
子	体重	26.0kg	子	体重	39.6kg
女	身長	125.7cm	女	身長	147.8cm
子	体重	25.6kg	子	体重	40.1kg

戦時中の食生活は本当に深刻な状況だ。今と昔では、こんなにもエネルギー量が違うんだね。そりゃあ、子どもたちの成長に大きく影響するわけだ…。



引用・参照：平和祈念資料館「戦時中の食生活」パネル

あ と が き

戦後80年……。暮らしが豊かになった現在ですが、世界では、大量の食品廃棄物がある一方で、栄養不足や飢えで苦しんでいる人が大勢いると言われています。また、この瞬間にも戦争や紛争で人々が命を落としたり傷ついたりしています。先ほど観たニュース画面では、救援物資を求めてヘリコプターを追いかける子どもが下敷きになってしまったという悲しい事故が報じられていました。いたたまれない気持ちになりました。80年前の日本の子どもの姿が今も世界にはあります。食事から平和を考え学ぶことは大切だと切に思いました。